

話し言葉における日本語学習者の副詞の使用実態

— I-JAS を用いて韓国語話者を中心に —

Actual use of adverbs by Japanese learners in spoken language: Focusing on Korean speakers using I-JAS

島崎英香
SHIMAZAKI Hideka

島崎英香
SHIMAZAKI Hideka

〔要旨〕

本研究では学習者コーパスである『多言語母語話者の日本語学習者横断コーパス』（以下I-JAS）を用いて、話し言葉における日本語学習者と日本語母語話者の副詞の使用実態を調査し、比較、分析した。研究対象データにはI-JASの話し言葉タスクを用いて、日本語母語話者と5つの言語の母語話者（韓国語、中国語、ベトナム語、英語、フランス語）の副詞の使用状況を調査し、比較、検討した。その結果、日本語母語話者に最も近い副詞の使用を行っているのは韓国語話者であることがわかった。その後、母語話者と韓国語話者のタスク別副詞選択の傾向を習熟度別、タスク別に調査し、副詞の使用頻度順に並べそれぞれの使用実態を探った。その結果、日本語母語話者はタスクにより副詞を使い分けていることが明らかになり、韓国語話者は母語話者に比べて「ちょっと」「まあ」の過剰使用や「とても」などの過小使用の可能性が示唆された。

Key word: 副詞、I-JAS、韓国語話者、過剰使用、過小使用



1. はじめに

副詞は一般に用言を修飾し、程度副詞や状態副詞としての働きや、文の命題内容に対する話者の態度を表す陳述副詞としての働きをする。しかし、副詞は他にも対人的・相互作用的な機能を担っており、それは書き言葉より話し言葉で顕著に見られる(中田:1993)¹⁾。

- ・ 礼儀作法の本を少しこう分析するとあるんじゃないかねえ。
- ・ お目にかかって、ちょっと30分ぐらいお話しがしたいものですから
- ・ それからまあ文化財保護委員みたいなのがいるんですけども、

上の例のように副詞は断定を避ける働きや、フィラーのように間つなぎや言いよどみなどの働きをしている。このような副詞の使用は日本語を話すときの自然な姿であり、話し言葉において重要な役割を果たしているといえる。

以下は、教師が韓国人日本語学習者(中級～上級レベル)にインタビューしたときの発話である²⁾。

- ・ ちょっと、変わったよりもちょっともっと日本人たちと現地で日本語で話して、それがちょっと違いがあったと思います。韓国では日本語で話しているのをよく分からなければ、韓国語で韓国人の学生に質問するのができましたが、ここでは日本語じゃなければ、ちょっと、質問が全然できないから、そこが違いで……、ちょっと慣れたと思います。

この学習者は一つのターンで「ちょっと」を必要以上に使用している。この例のように「ちょっと」を多用すると不自然で耳障りとなる。中道(1991)は「ちょっと」は、くだけた話し言葉的な文体で用いる、と断った上で、数量が少ないことを表す用法から呼びかけや伝達態度をあいまいにする用法、間つなぎの用法まで6種にわたるとしている。会話において様々な機能を持つこのような副詞の自然な使い方は、学習者にとって決してやさしくないことが推測できる。

石川(2012)は、学習者コーパスを用いて比較研究すれば、学習者ごとの差異や特性を抽出し、学習者の背景環境をふまえた教材や教授法の開発を目指すことができるとしている。また石川(2008)では、最も重要なのは母語話者と比較した場合の学習者の過剰使用、過小使用を探るタイプの研究であり、学習者の言語使用の特徴の解明によって、母語干渉、方略使用、言語分野別の得意、不得意などについての知見を深めることができると述べている。しかし、日本語学習者の副詞の実際の使用についての研究は、まだ十分とは言い難い。そこで本研究では、話し言葉において学習者が、副詞をどの程度、どのように使用しているのかを明らかにする。そのために学習者コーパスを用いて学習者と日本語母語話者の副詞の使用実態の差異を探る。その上で学習者の過剰使用、過小使用を見極め、学習者がより適切に副詞を使い表現を豊かにし、コミュニケーション

ションを円滑にすることができるようにしたい。

2. 日本語学習者の副詞習得に関する先行研究

近年、副詞に関する研究は増えているが、ここでは話し言葉における学習者の副詞習得に関する先行研究を紹介し、その問題点を指摘する。

小寺（2000）は、学習者の副詞の使用状況を明らかにするために初級から中級までの学習者6名（母語はインドネシア語、スペイン語、シンハラ語、中国語、アラビア語）にOPIインタビューを行い、会話に現れた副詞を調査、分析した。その結果、6人が多用していた副詞は「ちょっと」「たぶん」「いつも」等であると報告している。さらに小寺（2000）は初級学習者の副詞使用はレベルが上がるにつれ増えてはいるが、学習者の副詞使用にはある程度の共通性がみられたと報告している。しかし母語によって副詞の習得に違いがあるのかについては言及されていない。また、ここでは中級までの調査であり、上級レベルになりどのような副詞使用の変化が表れているかについて調査がなされていない。

朴（2017）は、話し言葉を中心に副詞「とても」について日本語学習者と日本語母語話者の使用実態を調査し、その異同について記述している。調査の結果、学習者は肯定用法での副詞「とても」の使用が圧倒的に多いが、日本語母語話者は「とても」の使用に偏りは見られず否定用法での使用も多いことから両者の使用実態には乖離が見られるとしている。また学習者の「とても」の使用実態は初級教科書における「とても」の導入実態に近いと指摘しており、学習者の使用実態に教科書の影響を示唆している。朴（2017）では、『タグ付きKY コーパス』と『名大会話コーパス』を使用して調査しているが、学習者の母語別の詳細な言及はなく、母語別の副詞「とても」の使用の特徴は捉えていない。

中俣（2016）は『日中 Skype 会話コーパス』を用いて、中国人学習者と日本語母語話者の使用語彙を品詞別に分析したところ、学習者の副詞使用は母語話者の6割にとどまる反面、学習者は多用するが母語話者はほとんど使用しない副詞もあり、学習者と母語話者の副詞の使用状況のズレが大きいということを確認した。しかし中国人学習者のみの調査のため他の国の学習者がどのように副詞を使用しているのかについては明らかにされていない。

迫田他（2016）は、「大量のデータを扱うことで、日本語能力レベルと言語発達の関係、習得困難点の要因や言語習得のメカニズムの解明の糸口を見つけることができる」と述べている。これまでの先行研究は、小規模な調査や個別の母語話者、個別の副詞についての調査が多く、体系的な調査はない。そのため大量の学習者データを活用し、母語別学習者の副詞の習得状況を調査し過剰使用、過小使用を見極める必要がある。

3. 調査目的

前節で述べたように、数カ国にわたる日本語学習者の副詞の使用実態調査をした研究は管見の限りほとんど見られない。話し言葉において最も日本語母語話者に近い副詞の使用をしているのは、どの母語話者なのだろうか。日本語学習者は日本語母語話者と同じような副詞を使用しているのだろうか。違いがあるとしたらどのような違いがあるのだろうか。そこで本研究では、話し言葉の観点から次の3点を調査することとする。

- (1) 母語話者別の副詞の使用状況はどのようになっているのか。(母語別)
- (2) レベルが進むにつれ副詞使用状況に変化があるのか。(習熟度別)
- (3) タスクの違いによって学習者と母語話者の副詞使用にどのような異同があるのか。(タスク別)

4. 母語別副詞の使用状況

学習者の出身地域や母語によって副詞の使用状況に違いがみられるのだろうか。本研究では、日本語学習者の副詞の使用実態を調査するために、まず母語話者と母語別の日本語学習者の副詞の使用実態を比較、調査する。

4.1 分析対象データと使用タスク

本研究では、IJAS (International Corpus of Japanese as a Second Language) 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』を用いて学習者の話し言葉における副詞の使用実態を調査する。IJASとは、海外17の国と地域、計20カ所で、かつ母語の種類12言語の日本語学習者が産出した日本語がデータベース化された、大規模な言語資料のことである。IJASは大規模コーパスであるというだけでなく、詳細な学習者情報を備えている点、学習者がどの程度の日本語の言語知識を持っているかという日本語能力の客観テスト(J-CAT、SPOT³⁾)の結果を付与されている点、一人の学習者に対して7種類12のタスクを行っている点等の特徴がある。さらに日本語学習者に加え、20代から50代の日本語教育経験のない日本語母語話者にも学習者と同様の調査を行っていることも特徴の一つである(迫田他2016:97)。

IJASでは7種類12のタスクを行っているが、本研究では話し言葉における副詞の使用状況を調査するため、12のタスクの中から会話タスクである①ストーリーテリング(2タスク)、②対話タスク、③ロールプレイ(2タスク)を調査対象とした⁴⁾。内容は以下の通りである。

① ストーリーテリング

提示されたイラストのストーリーを話すタスクである。トピックは以下の二つである⁵⁾。

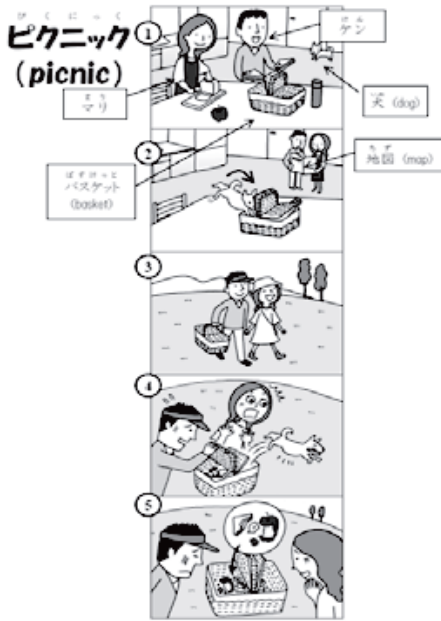


図1 ST1「ピクニック」

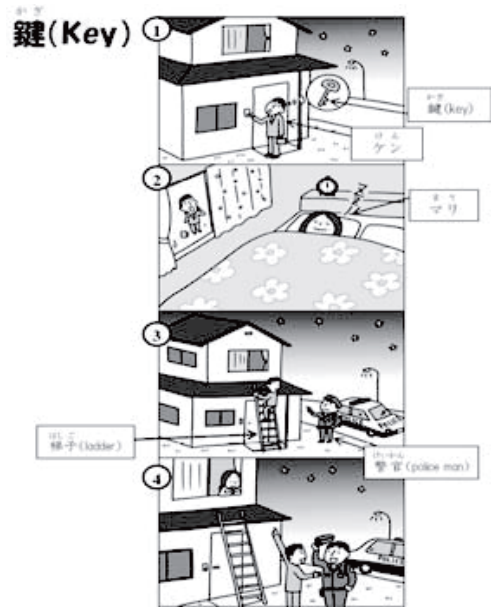


図2 ST2「鍵」

② 対話

学習者と調査実施者が自然な会話を 30 分程度行う自然会話である。前半は学習者本人に関すること、後半は意見陳述や反論ができるような話題である。

③ ロールプレイ

設定された場面に応じて、与えられた役を演じて会話するタスクである。設定は以下のとおりである。

- 1) 店長にアルバイトの出勤日数の変更を依頼する。
- 2) 店長からの仕事内容の変更依頼を断る。

4.2 分析対象データと調査方法

本研究では、『I-JAS 中納言 第四次公開版』(以下『中納言⁶⁾』)のうち、韓国語話者、中国語話者、ベトナム語話者、英語混合話者⁷⁾、フランス語話者の各 50 名のデータと母語話者のデータ 50 名分を用いた。分析対象データの話者の国は、まずは全体における各国の副詞の使用状況の位置づけを調査するために母語話者に加え、現在日本語学習者数が多い中国、韓国他にベトナム、そして欧米圏から英語話者、フランス語話者の 5 つの言語の母語話者の副詞の使用状況を調査することとした。まず、『中納言』から母語話者と 5 カ国の話者から使用された副詞を抽出し、それらの副詞をエクセルに取り込み目視で確認し、品詞認定等に誤りがあれば、その都度、手作業で修正を行った⁸⁾。表 1 は 5 つの言語の母語話者の使用データと分析対象語数である。表

1の左からIJASの使用データと人数、総語数、副詞の延べ語数、異なり語数（記号・補助記号・空白を除く）である。

表1 使用データと分析対象語数

話者 \ 項目	データと人数	総語数	副詞延べ語数	副詞異なり語数
日本語母語話者	50名（1次、2次データ）	237,051	13,284	327
韓国語	50名（1次、2次データ）	163,155	6,207	151
中国語	50名（1次、2次データ）	144,305	4,489	143
ベトナム語	50名（1次、3次データ）	139,912	3,290	96
英語混合	50名（1次、2次データ）	131,308	5,045	100
フランス語	50名（1次、4次データ）	122,174	3,769	84

表1を見ると、延べ語数では韓国語話者の副詞使用が1位であり、次に英語話者、中国語話者と続いていることがわかる。また異なり語数は、韓国語話者、中国語話者、英語話者と続いている。表1から韓国語話者は、日本語母語話者に比べると副詞の延べ語数、異なり語数ともに半分以下ではあるが、話し言葉における副詞の使用数では他の国に比べると、韓国語話者が最も優勢であるという実態が読み取れる。次に5つの言語の母語話者の副詞の使用状況を調査し、今回はその中で最も母語話者と使用状況が似ている国を選び、日本語母語話者の使用と比較し、どのように似ていて、また異なっているのかを詳細に分析し、学習者にとって習得困難な副詞を調査する。

4.3 母語話者別の副詞の使用状況

表2は1万字当たりの副詞の使用数を母語話者ごとに調査したものである。1万字当たりの副詞の使用数で日本語母語話者と最も近い数値になっているのは、英語話者、続いて韓国語話者であることがわかる。

表2 1万字当たりの副詞の使用数

話者 \ 項目	総語数	副詞延べ語数	1万字あたりの副詞の使用数
日本語母語話者	237,051	13,284	560
韓国語	163,155	6,207	380
中国語	144,305	4,489	311
ベトナム語	139,912	3,290	235
英語混合	131,308	5,045	384
フランス語	122,174	3,769	308

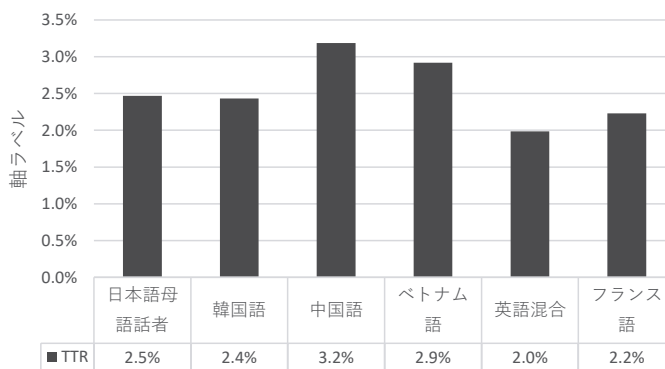


図3 日本語母語話者と5言語話者のTTR

次に日本語母語話者と5つの言語の母語話者のそれぞれのTTR (Type-Token Ratio) を算出した。TTRとは異なり語数を延べ語数で割った値で、語彙の豊富さを計るために広く使われている指標である。図3では、各母語話者の総語数に対する副詞の使用率と副詞の異なり語数を延べ語数で割った値TTRを算出し示した。図3をみると、日本語母語話者と最もTTRの値に近いのは、韓国語話者であることがわかる。

ここまで5つの言語の母語話者の副詞の使用状況について見てきた。量的側面から見ると韓国語話者が少なくとも他の5言語の中で最も母語話者に近い使用実態であることがわかった。それでは具体的に5つの言語の母語話者はどのような副詞を使用しているのだろうか。

5つの言語の母語話者の副詞の使用状況を調査するにあたって、各母語の日本語レベルの割合が違うならば単純に母語別に副詞の使用状況を比較することはできない。IJASでは日本語レベルを判定できるように学習者にJ-CATとSPOTの2種類の日本語能力の客観テストを行っている。そこでSPOTの点数を基に母語別の初級から上級までのレベル分布を調べた。図4を見ると初級、

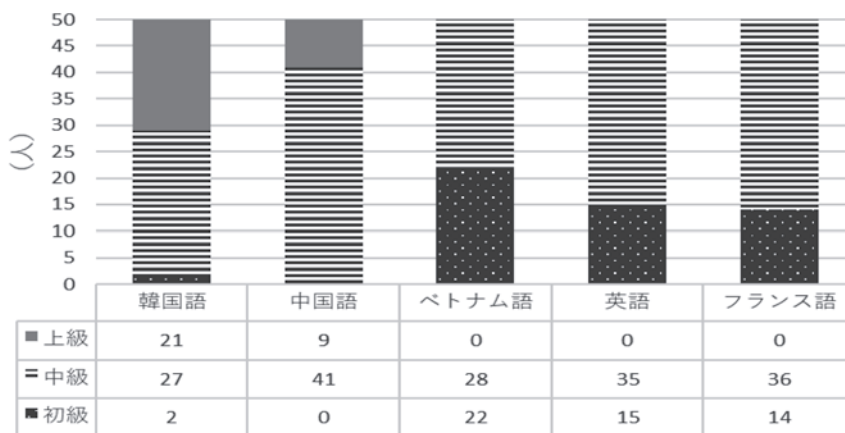


図4 母語別のレベル分布図

中級、上級と3つのレベルにわたっているのは韓国語母語話者のみで、中国語話者は中級と上級レベルのみ、ベトナム語話者、英語話者、フランス語話者は、上級レベルはおらず初級レベルと中級レベルのみであることがわかる。

図4の結果から5カ国に表れた中級レベルにしぼり、それぞれの国の副詞の使用状況を調査することとした。

表3では、母語別（中級）の話し言葉における副詞使用状況の頻度の高い15位までを示した。「使用率」は、副詞使用総数における各副詞の使用数の割合を%で表したものである。

表3 母語別の副詞使用状況

No	日本語	出現率	韓国語	出現率	中国語	出現率	ベトナム語	出現率	英語	出現率	フランス語	出現率
1	ソウ	25.42%	ソウ	20.28%	ソウ	14.19%	ソウ	14.98%	ソウ	17.26%	チョット	15.76%
2	チョット	8.93%	チョット	17.50%	チョット	12.83%	チョット	13.65%	チョット	12.16%	ソウ	14.78%
3	モウ	7.48%	マア	9.04%	トテモ	6.37%	トテモ	9.42%	タブン	9.82%	トテモ	13.80%
4	マア	5.92%	アマリ	5.32%	ヤハリ	6.17%	タクサン	6.84%	トテモ	8.53%	タブン	10.29%
5	ヤハリ	5.71%	モウ	5.27%	タブン	5.79%	ヨク	6.72%	モウ	5.67%	アマリ	6.31%
6	コウ	5.68%	ヤハリ	3.56%	ヨク	4.92%	タブン	6.23%	アマリ	5.61%	タクサン	5.49%
7	アマリ	3.43%	タブン	3.51%	モウ	4.63%	アマリ	5.84%	ヤハリ	3.75%	モウ	3.05%
8	ケッコウ	3.36%	ケッコウ	2.13%	アマリ	4.17%	イチバン	3.83%	タクサン	3.69%	ドウ	2.97%
9	タブン	2.85%	コウ	2.03%	ドウ	3.25%	モウ	3.47%	ヨク	3.53%	タトエバ	2.87%
10	ドウ	2.35%	ヨク	2.03%	イチバン	2.99%	マダ	2.52%	マア	3.21%	イチバン	2.76%
11	ゼンゼン	1.59%	ドウ	1.98%	モシ	2.56%	タトエバ	2.49%	イチバン	3.05%	ヨク	2.20%
12	イロイロ	1.36%	イチバン	1.95%	ズット	2.41%	ドウ	2.19%	モット	2.90%	ゼンゼン	1.83%
13	ヨク	1.33%	ズット	1.88%	ゼンゼン	2.29%	ゼンゼン	2.07%	ドウ	2.26%	マダ	1.80%
14	ズット	1.32%	モット	1.84%	イロイロ	2.07%	ズット	1.95%	マダ	2.18%	スコシ	1.64%
15	イチバン	1.06%	ゼンゼン	1.79%	タトエバ	1.92%	イロイロ	1.79%	スコシ	1.39%	モット	1.33%

日本語母語話者を基本に観察すると、共通している副詞、していない副詞があるのがわかる。母語話者の高頻度語15位までとの重複語数は、韓国（13語）＞中国（12語）＞ベトナム（11語）＞英語（10語）＞フランス語（9語）となっていた。この結果を見るとアジア圏学習者の方が欧米の学生よりも母語話者に近い副詞の使用がみられることがわかる。また韓国語話者の副詞使用が最も日本語話者の副詞使用に近いことがわかる。

個別の副詞を見てみると、15位までですべての母語話者に共通する副詞は「そう、ちょっと、もう、あまり、たぶん、どう、よく、いちばん」の8語であった。頻度順の上位3位までに副詞「そう」「ちょっと」がすべての国で使用されていることがわかる。使用率という観点から見てみると、「ちょっと」はどの国も日本語母語話者との重なりはあるものの、使用率では母語話者よりも高い比率で使用されている。逆に「そう」は、母語話者との重なりがあり母語話者よりも低い比率で使用されている。反対に母語話者との重なりが見られない副詞で学習者が高頻度で使用している副詞は「とても」である。表3からもわかるように日本と韓国以外の学習者は「とても」の使用が多いが、母語話者の使用は全体の0.5%にすぎず25位である。韓国語話者の「とても」の使用率も1.4%と他の4つの言語の母語話者よりも低い使用率となっている。また高頻度で使用される日本語母語話者と韓国語話者だけの重なりとしては、「まあ」が見られた。

5. 韓国語話者の副詞の使用実態調査

前節で日本語母語話者と韓国語話者をはじめとする5つの言語の母語話者の副詞の使用状況を示した。その結果、最も日本人母語話者に近い副詞の使用が見られるのは、韓国語話者であることがわかった。では、韓国語話者は母語話者と同じように副詞を使用しているのだろうか。他の国の話者と比較してみても、日本語母語話者と韓国語話者は、副詞の使用実態が似ていることが明らかになったが、使用率や用例を詳しく見て過剰使用、過小使用、特有の誤用がないかなどを調査する必要がある。ここからは韓国語話者の副詞使用の使用実態を明らかにする。

5.1 分析対象データと分析方法

韓国語話者は、4.1と同じくI-JASの2次データ50名分を分析対象データとした。分析対象データの語数は表4の通りである。

表4 分析対象データの語数⁹⁾

	インタビュー		ロールプレイ		ストーリーテリング		総計		副詞 使用率
	副詞総数	総語数	副詞総数	総語数	副詞総数	総語数	副詞総数	総語数	
韓国語	5,159	130,358	925	21,699	123	11,098	6,207	163,155	3.8%
日本語	11,837	203,099	1,290	21,836	157	12,116	13,284	237,051	5.6%

日本語母語話者も同じくI-JASの1次・2次データ50名分を分析対象とした。分析対象タスクである①対話タスク、②ロールプレイタスク(RP)、③ストーリーテリングタスク(ST)から『中納言』を利用してそれぞれ副詞を抽出し、必要に応じ用例を収集した。

5.2 韓国語話者の習熟度別の副詞使用状況

I-JASでは日本語レベルを判定できるように学習者にJ-CATとSPOTの2種類の日本語能力の客観テストを行っている。本研究では韓国語話者50名をSPOTの点数を基に初級、中級、上級レベルに分けた。SPOTでは0～30点が入門レベルで日本語を学習したことがほとんどないレベルである。31～55点は初級レベルでゆっくりであれば日常生活の基本的な日本語を理解でき、日本語能力試験のN4、N5に相当する。56～80点は中級レベルで自然な速度で日常的な場面の日本語がある程度理解できるレベルであり、日本語能力試験ではN3、N2に相当するレベルである。81～90点は上級レベルで、自然な速度で幅広い場面の日本語が理解できるレベルで日本語能力試験ではN1に対応している。韓国語話者をSPOTの成績により初級レベル、中級レベル、上級レベルに分けた結果、韓国語話者50名中、初級2名、中級21名、上級27名となった。表5は、習熟度別の副詞の使用状況を高頻度順に並べたものである。

表5 韓国語話者と母語話者の習度別副詞の使用状況

No	初級（2名）	使用率	中級（27名）	出現率	上級（21名）	使用率	母語話者（50名）	使用率
1	ソウ	19.2%	チョット	22.1%	ソウ	19.2%	ソウ	25.42%
2	メチャ	13.9%	ソウ	21.7%	チョット	14.2%	チョット	8.93%
3	ゼンゼン	10.6%	アマリ	6.0%	マア	12.3%	モウ	7.48%
4	チョット	8.6%	マア	5.5%	モウ	6.6%	マア	5.92%
5	ドウ	5.3%	ヤハリ	5.2%	アマリ	4.9%	ヤハリ	5.71%
6	モット	5.3%	モウ	3.7%	タブン	4.2%	コウ	5.68%
7	スコシ	4.6%	タブン	2.7%	コウ	3.4%	アマリ	3.43%
8	タクサン	4.0%	イチバン	2.4%	ケッコウ	3.1%	ケッコウ	3.36%
9	モウ	3.3%	ヨク	2.4%	ヤハリ	2.3%	タブン	2.85%
10	ハジメテ	2.6%	ドウ	2.2%	ズット	1.9%	ドウ	2.35%
11	トテモ	2.6%	ズット	2.0%	ヨク	1.8%	ゼンゼン	1.59%
12	アマリ	2.0%	モット	1.9%	イロイロ	1.7%	イロイロ	1.36%
13	イッパイ	2.0%	ゼンゼン	1.9%	ドウ	1.6%	ヨク	1.33%
14	タダ	2.0%	イロイロ	1.6%	モット	1.6%	ズット	1.32%
15	マダ	1.3%	タクサン	1.5%	イチバン	1.6%	イチバン	1.06%
16	タブン	1.3%	トテモ	1.4%	スコシ	1.5%	タトエバ	0.92%
17	スグ	1.3%	スコシ	1.3%	ゼンゼン	1.3%	トクニ	0.87%
18	ヤハリ	1.3%	イッパイ	1.1%	スグ	1.3%	マダ	0.86%
19	イチバン	1.3%	ケッコウ	1.1%	マダ	1.2%	ワリト	0.82%
20	ナゼ	1.3%	スグ	1.0%	イッパイ	1.0%	チョウド	0.78%

初級韓国語話者では2名のデータしかないため、信頼性が高いとは言えず参考までに掲載する。表5を見ると、中国語話者など使用率が共通して高かった「とても」は、韓国語話者中級での使用は中級1.4%となっているが、その代わりに程度を表す「よく」などの使用が見られる。また「ちょっと」の使用が高頻度で見られる。

上級では「ちょっと」の使用率が少々抑えられ、「まあ」の使用の伸びが際立っている。また中級では20位以内に入っていなかった「こう」の使用がみられる。「けっこう」の伸びも母語話者に近づいており、代わりに「いちばん」の使用率が抑えられている。

上級韓国語話者と日本語母語話者の副詞使用を比較してみると、使用されている副詞の種類、使用率が母語話者により近づいていることが認められる。ただ、その中でも「まあ」や「ちょっと」の使用率が母語話者よりも1.5倍から2.5倍程度高いことがわかる。

5.3 母語話者と韓国語話者のタスク別副詞使用の結果と考察

次にタスク別に行った母語話者と韓国語話者の副詞の使用状況を調査、比較した結果と考察を示す。

5.3.1 インタビュータスクにおける副詞使用の結果と考察

表6はインタビュータスクにおける日本語母語話者と韓国語話者の副詞の使用状況を高頻度順に並べたものである。

表6 インタビュータスクの副詞の使用状況

No	日本語	使用率	No	韓国語	使用率
1	ソウ	25.7%	1	ソウ	20.7%
2	モウ	7.7%	2	チョット	16.5%
3	チョット	7.2%	3	マア	9.7%
4	マア	6.3%	4	アマリ	6.0%
5	コウ	6.1%	5	モウ	4.9%
6	ヤハリ	5.9%	6	ヤハリ	3.5%
7	アマリ	3.7%	7	タブン	3.5%
8	ケッコウ	3.6%	8	ケッコウ	2.4%
9	タブン	3.0%	9	ヨク	2.3%
10	ドウ	2.3%	10	イチバン	2.3%

インタビュータスクでは、日本人母語話者と韓国語話者には高頻度順の10語中8語の副詞の重なり「そう」「もう」「ちょっと」「まあ」「やはり」「あまり」「けっこう」「たぶん」が見られる。「ちょっと」の使用率を見てみると、韓国語話者は日本語母語話者に比べて2倍位以上の使用率である。インタビュータスクは自分のことや考えを対話形式で自由に話すタスクということもあり、三つのタスクの中で最も自然な会話が見られるはずである。ここでは以下の例のように「ちょっと」や「まあ」とともに「あまり」「けっこう」「たぶん」を使って、話すときに間をつないだり、断定を避けたり、表現を和らげたりしてコミュニケーションを円滑にしようとしていることが推測できる。

- (1) そうですね、まあでもしゃべるのは好き、ですねやっぱり (JJJ01¹⁰⁾)
- (2) 時間、いや、でも、いや、まあ難し、まあただ今、お金が無いから。お金に飢えてる、だけか (JJJ03-I)
- (3) ん、でもあのでもあ、私が使ってる日本語ってけっこうきれいな〈うん〉日本語だと思えますよ (KKD11¹¹⁾-I)
- (4) まあその一、まあちょっと離れた場所の方がね、安く済むってゆうね (JJJ04-I)

(4)の母語話者の例のように「まあ」や「ちょっと」は、次の言葉を探すまでの時間稼ぎのストラテジー（方略）として使われることもある。このようにインタビュータスクでは、日本人母語話者、韓国語話者とも「ちょっと」や「まあ」を頻繁に使用している。「ちょっと」「まあ」を用いることで、適切な言葉を探すまでの時間稼ぎをしたり、断定を避けたり、謙遜、卑下したりと

様々なストラテジーを用いてコミュニケーションを円滑に進めようという意識がうかがえる。ただインタビュータスクでは、韓国話者は母語話者よりも「ちょっと」「まあ」の使用率が高く、韓国語話者は(5)(6)のように必要以上に「ちょっと」「まあ」を用いがちで過剰使用の可能性が考えられる。

- (5) ちょっと、ち、父と娘の話ですけどー。少しなんか、暴力的な内容な、あー、あ、でもあーちょっと見られない、なんか暴力的で、血もま、血も出てちょっと暴力すぎてゆーか、なんかはい、そうでし (KKD01-I)
- (6) 普通、韓国あソウルに、まあ来る、外国人はインザドン、に行きますんー、まあ普通、韓国あソウルに、まあその、割として韓国の伝統的な建物とかさうゆう、ものが保存されてる、所なんです、割とまあ結構、保存されて結構、まあ保存されてまあそれを、ちょっと日本に変わった、ものを見るそれを、ちょっと日本に変わった、ものを見ることもできるし (KKD21-I)

次に日本語母語話者の使用率5位である「こう」についてみている。「こう」は韓国語話者では11位となっている。(7)(10)の例のように韓国語話者が日本人と同じように使用できていることがわかる。

- (7) そうですね、うーん、田舎の方がもっこう、ゆっくりできる。(KKD09-I)
- (8) こうどっちを見ても、山もあるけど海もあるみたいな感じで (JJJ20-I)
- (9) やりたいとゆう気持ちがあるのと、んー、えーと何でしょうね、もうちょっとこうゆったり生きたい (JJJ47-I)
- (10) あとはこう日本語がすごくきれいに聞こえて、勉強したい、と思ったんです (KKD08-I 84)

山内 (2003) は日本語 OPI レベル判定に寄与する形態素を探るため、KY コーパスを用い形態素解析を行った。その結果、副詞「こう」などは上級までにはほとんど現れず、超級になると突然現れることから、「こう」は超級であることを決定する形態素としている。しかし上級レベルになると韓国語話者は「こう」については母語話者と概ね同じように使用できていることがわかった。

5.3.2 ロールプレイトスクにおける副詞使用の結果と考察

ここではロールプレイトスクにおける結果と考察を示す。

表7は2種類のロールプレイトスクにおける日本語母語話者、韓国語話者の副詞使用の10位までを頻度順に示したものである。

表7 ロールプレイ（1・2）タスクにおける副詞の使用状況

ロールプレイ 1					ロールプレイ 2				
No	日本語	使用率	韓国語	使用率	No	日本語	使用率	韓国語	使用率
1	チョット	32.0%	チョット	24.1%	1	ソウ	24.8%	チョット	23.0%
2	ソウ	25.0%	ソウ	19.8%	2	チョット	19.9%	ソウ	19.4%
3	モウ	4.7%	モウ	5.8%	3	ヤハリ	8.0%	ヤハリ	7.5%
4	ヨロシク	4.1%	マア	5.1%	4	モウ	6.9%	タブン	4.8%
5	マア	3.4%	ドウ	4.6%	5	アマリ	3.3%	モウ	4.6%
6	ドウ	3.0%	ヤハリ	4.5%	6	コウ	3.0%	ドウ	4.6%
7	ヤハリ	2.3%	タブン	4.0%	7	マア	2.5%	アマリ	3.6%
8	ナルホド	2.0%	スコシ	2.9%	8	タブン	2.5%	モット	3.4%
9	モシ	2.0%	モット	2.8%	9	ドウ	2.4%	マア	3.2%
10	イロイロ	1.7%	ズット	2.3%	10	ケッコウ	2.4%	ゼンゼン	3.2%

ロールプレイ 1は、「店長にアルバイトの出勤日数の変更を依頼する」タスクである。両者の使用の重なりは 10 語中 6 語であった。日本語母語話者、韓国語話者とも「ちょっと」の使用が 1 位であり「そう」がそれに続いている。

ロールプレイ 1では「変更をお願いするタスク」のため日本語母語話者も韓国語話者も「ちょっと」を頻繁に使用し、(11)や(12)の例のように気遣いを示していることがわかる。

- (11) 今は、週、三、入らせていただてるんですけど、ちょっとあの一、ま忙しいので、週二回に減らせないかなと思ひまして (JJJ03-RP1)
- (12) あーはいちょっと言いづらんですけど、ちょっとシフトちょっと一減らして一もらってほしいんですけど (KKD11-RP1)

また韓国語話者は母語話者に比べて「まあ」の使用が多くなっているが、依頼するときに(15)~(17)のように「まあ」を入れると場合によっては話者の申し訳ない気持ちが半減し傲慢な感じさえしてしまうことがあるので、「まあ」の使い方には注意が必要であることがわかる。

- (15) それを二日に、縮むことは、まあそうゆうわけにはいかないでしょうか (KKD21-RP1)
- (16) 本当に申し訳ございません、あの、まあ全然できないわけじゃないんです (KKD28-RP1)
- (17) そうですね、もうここも、まあ働くのはもちろん楽しいですけど (KKD53-RP1)

次にロールプレイ 2は、「店長からの仕事内容の変更依頼を断るタスク」である。両者の重なりは、10 語中 8 語であった。表 7を見ると、母語話者は 1 位「そう」と 2 位「ちょっと」の使用率の合計が 44.7%、韓国語話者は 1 位「ちょっと」と 2 位「そう」の使用率の合計が 43.9%

となっており、ともに45%近くが「そう」「ちょっと」で占められていることがわかる。このことから母語話者、韓国語話者とも「依頼を断るタスク」であるロールプレイ2も「ちょっと」を使い柔らかく断ろうとしていることがわかる。「ちょっと」の後件で母語話者、韓国語話者に共通している語彙は「苦手、心配、難しい、無理」であった。他に母語話者は「荷が重い、厳しい、自信がない」、韓国語話者は「だめ、下手、恥ずかしい、不安」などを使用していた。

- (18) いきなり変わる、と言うとちょっと難しいところが、気持ちの入れ替えもで、ちょっとなかなかできないですし (JJJ36-RP2)
- (19) 料理を作った、作ってみたことはあんまり、ありませんので、ちょっと難しいんじゃないかと思いますが (KKD59-RP2)
- (20) そっちの料理の方はよくわからないので、やっぱりちょっと荷が重いと思いますのでー (JJJ32-RP2)
- (21) でも私、日本語がちょっと下手でー (KKD10-RP2)

このように依頼や断りのタスクでは母語話者、韓国語話者とも「ちょっと」を使って表現を和らげるストラテジーを使用していることがわかった。中田(1991)も「ちょっと」を用いることにより「会話の目的をよりうまく達成することができる」と述べている。このようなことから副詞「ちょっと」は断りや依頼の表現を教えるときに大事なストラテジーであることが確認された。

5.3.3 ストーリーテリングタスクにおける副詞使用の結果と考察

表8は、ストーリーテリングにおける母語話者と韓国語話者の副詞使用の状況を頻度順に表したものである。

表8 ストーリーテリング(1・2)タスク

ストーリーテリング1					ストーリーテリング2				
No	日本語	使用率	韓国語	使用率	No	日本語	使用率	韓国語	使用率
1	トテモ	15.9%	モウ	16.1%	1	グッスリ	11.4%	モウ	19.4%
2	ソウ	11.6%	チョット	10.7%	2	チョウド	11.4%	ズット	13.4%
3	ナカヨク	5.8%	マア	10.7%	3	モウ	9.1%	チョット	10.4%
4	セツカク	5.8%	ガツカリ	8.9%	4	ドウ	8.0%	マア	7.5%
5	トツゼン	4.3%	ゼンゼン	8.9%	5	マツタク	6.8%	ゼンゼン	7.5%
6	ガツカリ	4.3%	ソウ	8.9%	6	ソウ	6.8%	イロイロ	4.5%
7	ピョン	2.9%	トテモ	3.6%	7	スツカリ	5.7%	グッスリ	4.5%
8	コッソリ	2.9%	スグ	3.6%	8	ステニ	5.7%	ドウ	4.5%
9	モウ	2.9%	コッソリ	3.6%	9	ヨウヤク	3.4%	ソウ	4.5%
10	チョット	2.9%	ステニ	3.6%	10	ピンポーン	3.4%	チョウド	3.0%

ストーリーテリング1では、母語話者と韓国語話者が共通して使用している副詞は「とても」「そう」「がっかり」「こっそり」「ちょっと」の5語であった。日本語母語話者は「とても」の使用が15.9%で1位となっているが韓国語話者の「とても」使用は2回のみ3.6%となっている。韓国語話者は「もう」が1位となっている。またここでも韓国語話者では母語話者にはあまり見られない「ちょっと」「まあ」の使用率が高い。日本人母語話者は、強調の副詞「とつても、とても」を用い、絵をみてストーリーを描写している。一方、韓国語話者は、「とても」の使用はほとんどなく、1回だけの使用で、「とつても嬉しくない」と誤用となっている。

日本語母語話者は全体的に「とても」の使用率が低いなか、ストーリーテリング1では、母語話者の「とても」の使用率は1位となっており、母語話者は、「とてもいい天気です」のような描写の他にも「びっくりした、驚いた、残念そう、がっかりした」などの第三者の心理描写の強調に「とても」を使用していた。韓国語話者も「がっかりした」という心理描写を表現してはいたが「とても」などの副詞を使用していなかった。

- (22) 二人はとつても残念な気持ちでピクニックを終わりました (JJJ16-ST1)
- (23) 先ほど入った犬がわつと飛び出してきて、えーと二人はとつてもびっくりしました (JJJ19-ST1)
- (24) それでマリとケンさんは、とつても、せ、あー、嬉しくない嬉しくない、嬉しくないです (KKD29-ST1)

日本人母語話者は、ロールプレイ2でも「ちょっと」を使って婉曲的に頼まれた仕事が苦手としていることを伝えてもいるが、(25)~(27)のように自分の気持ちや状況を「とても」を使って強調している。

- (25) んー私はあまり料理は、んー、あまりというよりは、とても苦手としています (JJJ24-RP2)
- (26) んーとても料理が苦手な、んーあの一作れるレベルではないので (JJJ33-RP2)
- (27) お力になれないのがとても心配です (JJJ17-RP2)

それに対し、韓国語話者は、以下の例からわかるように同じ述語「苦手」に対しても、「とても」ではなく「ちょっと」を用いている。

- (28) ああ、私、あまり調理には、ちょっと苦手なんです、むしろはいになると思っていますけど (KKD04-RP2)
- (29) なんか俺、う、自分、ほんとに料理がちょっと苦手なので、たぶん僕が料理したら、客、減るかもしれません (KKD02-RP2)

(30) 料理はちょっと苦手ですので (KKD04-RP2)

「とても」は程度が甚だしい様子を表し、状態を表す述語にかかる修飾語である。話者の主観として程度の甚だしい様子を表すものの、「とても」を会話で使うと表現自体は冷静さを帯びる。IJAS の実際の話し言葉のタスクにおいても母語話者は「とても」を頻繁には使っていない。中俣 (2016) の調査でも、会話における母語話者の「とても」の使用は非常に少なく、母語話者が最も多用した強調表現は「すごく」「すごい」であることがわかっている。しかし IJAS の使用データから母語話者は、依頼や断りなど使う場面や相手によって「とても」を適宜使用していることがわかる。また日本人母語話者の例のように話し言葉で「とても」を使うと、程度の甚だしさだけではなく、フォーマルな場面での丁寧さが出てくることがわかるが、韓国語話者の「とても」の使用は3件のみであり、使用しているのは中級の学習者のみで上級の学習者にはいなかった。

(31) お客さんがいる時にはとても忙しいだと思いますので (KKD20-RP2)(32) 日本語を使って客に話したことがとても好きで、そんな、そのそのことをちょっとしたいと思って、そうです (KKD40-RP2)(33) 今の仕事は私と一あーとても間に合ったを、と一思います (KKD45-RP2)

尹 (2015) によると、韓国語話者は副詞の誤用には程度を表す副詞に多く見られ、「たくさん」を用いた誤用に「とても」や「もっと」の使い分けの混同によるものが多いとしている。事実、IJAS の会話タスクにおいても韓国語話者は「とても」よりも「たくさん」「もっと」の使用率が高く、「とても」を多用する他の学習者とは異なる副詞の使用が見られ、母語の影響であることが推測できる。

また、前述したようにストーリーテリングでも「まあ」の使用は韓国語話者が多く、以下の例のように客観的に描写する場面においても不必要と思われる「まあ」を頻繁に使用している。使用率だけではなく、前後の場面や意味を考えてみても「まあ」の過剰使用の傾向が考えられる。

(34) マリと、あマリとケンハサンドイッチを作って、まあ出かける支度をしました (KKD21-ST1)(35) 二人が、ピクあー公園で歩いて、歩いてながら、まあ楽しんだ後一、お腹すいて一、お一席を一探して一 (KKD46-ST1)

このように韓国語話者はストーリーテリングでも「まあ」を多用していることがわかった。また(38)にあるように残念な気持ちを表す「せっかく」を日本人母語話者は使用していた (使用率 5.8%) が、韓国語話者は残念な気持ちを「せっかく」を使って表現できておらず代わりに「もう」

を使用していた。

- (38) 飼っている犬が、せつかく作った料理をえー食べてしまってるのに気付いて二人はとても残念そうでした (JJJ13-ST1)
- (39) ケンさんがーそのバスケットの中を見してみると、ま犬がもう、すべてのお弁当を食べてしまったってゆう残念な話ですね (KKD27-ST1)

次にストーリーテリング2では、母語話者、韓国語話者共に見られる副詞は10語中5語であった。母語話者はよく寝ている様子を「ぐっすり」を使って表現しているが、韓国語話者は「ぐっすり」の使用は少なく、時間を表す副詞「ずっと」や「もう」で代用していた。また、ストーリーテリング2でも韓国語話者は以下のように日本人にはあまり見られない「ちょっと」や「まあ」を使用していた。

- (40) マリを起こそうとして、叫んでもマリはぐっすり寝ているようでした (JJJ02-ST2)
- (41) 起こそうと叫びましたが、マリさんはそれを知らずにずっと寝ています (KKD08-ST2)
- (42) ドアを開けてって叫んでみたら、マリはもう寝ていて、全然聞こえませんでした (KKD10-ST2)
- (43) 二階に、はい入ろうと思いましたが、それを警官に見つかれて、ちょっとあの何というか、「ここに住んでいる者です」って言いました (KKD54-ST2)
- (44) 中に、あその部屋の中にあ、いる、と妻のマリさんを、まあ一階から呼んで、起こして窓を開けてもらうように、しました (KKD24-ST2)

また、(45)~(47)の例のように母語話者は「やっと」「ようやく」を使って話者の待っていたという期待感を表現していたが、韓国語話者は全く使っておらず代わりに「いよいよ」というここでは相応しくない副詞を用いていた。「やっと」「ようやく」を使用すべきところで使用できず、「いよいよ」が適切に使えていないことがわかる。

- (45) そこでやっとマリが、目を覚まし、二階の窓から {ノックのような音} ケンと警官に声を掛け (JJJ30-ST2)
- (46) そこでようやく騒ぎを聞きつけたマリが起きてきて、警官に事情を話してもらい、全て (JJJ25-ST2)
- (47) 警官を呼んで梯子を使って、上に上ろうとしたんですけど、いよいよマリが起きて、それを見て、何もなかったことが判明しました (KKD33-ST2)

以上のように韓国話者ストーリーテリングでは韓国語話者は、「ちょっと」「まあ」に加えて、「も

う」を多用していたが、母語話者と比較してみてもまだまだ表現を豊かにすることができる余地があると考えられる。

6. まとめと今後の課題

本研究では、I-JAS の話し言葉タスクを基に、まず日本語母語話者と5つの言語の母語話者の副詞の使用実態を調査した。さらに学習者と日本語母語話者について副詞の使用実態の違いについて調査することを目的に、その足がかりとしてまず最も日本語母語話者の副詞使用に近い韓国語話者について調査することにした。その結果、以下のことが明らかになった。

- ・韓国語話者の副詞の使用は、他のアジア圏話者（中国、ベトナム）や欧米圏話者（英語、フランス語）と比べて、最も母語話者の使用実態に近いということが明らかになった。また副詞使用実態は習熟度が上がるにつれて母語話者に近づいていることがわかった。
- ・日本語母語話者は、常に同じような副詞を使っているのではなく、タスクによって副詞の使い分けをしていることがわかった。インタビュータスクでは、「ちょっと」「まあ」を使い、間をつないだり、断定を避け表現を和らげながらコミュニケーションをスムーズに行ったりしていた。一方、「とても」の使用は全体的に少なかったものの、場面描写をするストーリーテリングでは「とても」を用いながら丁寧な描写を行っていた。ロールプレイのお願いや断りというタスクでは、「ちょっと」などを使い、相手に失礼にならないように断定を避け柔らかくタスクを遂行していることがうかがえた。
- ・日本語母語話者の副詞の使用実態と比べるとその使用は概ね似ていたが、タスクにより大きな違いも見られた。韓国語話者ではどのタスクでも「ちょっと」「まあ」が高頻度で出現していたが、その使用率は母語話者よりも高く、過剰使用されている可能性を指摘した。韓国語話者の「まあ」の使用は他言語話者と比べても使用率が突出して高いため、母語の影響が考えられる。第二外国語を使用しているという発話時の緊張した心理状態であるということも考えられるが、タスクによっては「まあ」「ちょっと」を過剰に使用することにより、相手に与える印象にマイナスの効果が出てくる場合もあることがわかった。「ちょっと」や「まあ」は様々な意味、機能があり学習者にとっては使い方が難しく、お願いや断りなどの場面の使用ではその使用が相応しくない場合もあり、指導では適切な場面で使用するために注意が必要であることが示唆された。
- ・韓国語話者が過小使用している副詞として「とても」が挙げられ、代わりに「ちょっと」を使用していることが多かった。
- ・韓国語話者は「やっつ」「ようやく」「せっかく」を適切な場面で使えていないことがあり、指導の必要があることがわかった。

本研究では、最も日本人母語話者の副詞の使用実態に近い韓国語話者の副詞使用の実態について調査した。両者は共通している副詞使用も多くあったが、タスクによっては韓国語話者が副詞を有効に使用できていない実態も明らかになった。しかし、なぜ韓国語話者は「まあ」「ちょっと」を過剰使用しているのか、「とても」を過小使用しているのかについては詳細な考察ができなかったため、さらに調査、分析を進めることを今後の課題としたい。

注

- 1) 例文は(中田:1993)からの引用である。
- 2) 発話は筆者が非常勤を務めている大学において短期プログラムの修了テストでインタビューされたものである。当該の韓国人学習者はN1保持者であり、作文、開始時に行った筆記テスト、インタビューテストから上級クラスに配置された。
- 3) J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test) は日本語能力自動判定テストで、SPOT (Simple Performance-Oriented Test) はTTBJ (Tsukuba Test-Battery of Japanese) の1つで言語知識と言語運用の両面から日本語能力を測定するものである(迫田他:2016)。
- 4) 他に発話データとして絵描写、作文データとしてストーリーライティング、メール文、エッセイがある。絵描写は実施していない調査地があるため、本調査では使用しなかった。
- 5) イラストは(迫田他:2016)からの抜粋である。
- 6) 中納言はデータバージョン2.4.2、第4次公開データ2019.05版を使用した。
- 7) 「英語混合話者」とは、アメリカ(27名)と、オーストラリア(23名)で録音したデータである。
- 8) I-JASでは、UniDicで短単位として解析された結果を利用しているため誤解析が出てくる可能性もあるため、目視でチェックした。その結果、「こう」「そう」「ああ」「どう」は副詞と判定されていたが、前後の文から連体詞となるものなどは取り除いた。
- 9) 「インタビュー」は対話タスク、「RP」はロールプレイタスク、「ST」はストーリーテリングタスクのことである。
- 10) JJJは「日本人母語話者」を示す。
- 11) KKDは「韓国語話者」を示す。

参考文献

- ・李在鍋・小林典子・今井新悟・酒井たか子・迫田久美子(2015)「テスト分析に基づく「SPOT」と「J-CAT」の比較」『第二言語としての日本語の習得研究』第18号, 2015年12月, pp.53-69.
- ・尹惠珍(2015)「副詞使用の誤用とその原因について-韓国語を母語とする日本語学習者の副詞の誤用例を参考に」『日本語/日本語教育研究』6 pp.115-122
- ・石川慎一郎(2008)『英語コーパスと言語教育』大修館書店
- ・石川慎一郎(2012)『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房
- ・小寺里香(2001)初級～中級学習者の発話にみられる副詞の使用について『岐阜大学留学生センター紀要』2000 pp.76-86
- ・小西円(2018)「日本語学習者の習熟度別に見たフィラーの分析」『国立国語研究所論集』15,

pp.91-105

- ・小西円（2017）「日本語学習者と母語話者の産出語彙の相違—JASの異なるタスクを用いた比較」『国立国語研究所論集』13 pp.79-105
- ・迫田久美子（1996）「指示詞コ・ソ・アに関する中間言語の形成過程—対話調査による縦断的研究に基づいて」『日本語研究 89号』pp.64-75
- ・迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須加和香子・細井陽子（2016）「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」国語研プロジェクトレビュー Vol.6 No.3 pp.93-110
- ・中田智子（1991）「談話における副詞のはたらき」『日本語教育指導参考書—副詞の意味と用法—』国立国語研究所 pp.81-108
- ・中俣尚己（2016）「学習者と母語話者の使用語彙の違い—『日中 Skype 会話コーパス』を用いて—」『日本語／日本語教育研究』7, pp.21-34 日本語／日本語教育研究会
- ・中道真木男（1991）「副詞の用法分類—基準と実例—」『日本語教育指導参考書—副詞の意味と用法—』国立国語研究所 pp.149-151
- ・朴秀娟（2017）「「とても」における日本語学習者と日本語母語話者の使用実態の違い—話し言葉を中心に」『日本語／日本語教育研究』〔8〕 pp.101-121
- ・橋本直幸（2011）「学習者コーパスから見る超級日本語学習者の言語特徴—2つの観点から」pp.241-263『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- ・飛田良文・浅田秀子（2009）『現代副詞用法辞典』東京堂出版
- ・山内博之（2003）「POI データの形態素解析—判定基準の客観化・簡易化に向けて」『実践女子大学文学部紀要』45 pp.1-10 実践女子大学文学部